

「Dreams Come True～夢を実現するために～」

- 1 日時 平成28年9月20日(火)～10月7日(金)
- 2 学年・学級 2年B組(男子14人 女子16人 計30人)
- 3 単元名 Program 6 「A Work Experience Program」・My Project 5 「スピーチをしよう」
(Sunshine English Course 2 開隆堂)
- 4 本単元を指導するにあたって

本単元での言語材料として、不定詞の名詞的用法、形容詞的用法、副詞的用法を扱う。

内容としては、登場人物たちが自分の職場体験を通して感じたことや学んだ事等を伝え合い、単元末にはそれらの体験と自分の夢とつなげたスピーチをするという場面が設定してある。本校の生徒も、夏季休業中に職場体験をし、「総合的な学習の時間」において自分たちが学んだ事を発表したところである。それらを生かし、教科書の内容を参考に、不定詞などの言語材料を使って、英語で伝え合うことができる内容である。

生徒たちは昨年度2回、学級でのスピーチ発表を経験している。人前で話す際のデリバリーのポイント(アイコンタクト・声の大きさ・表情やジェスチャーで相手の理解を促す)を理解しているものの、英語の強勢、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴をとらえ、正しく発音することへの意識が不十分になりがちである。

本単元におけるパフォーマンス課題である「夢の実現宣言」の発表の際は、英語の技能とデリバリーの両方を意識させて「聞き手に伝わるスピーチ」をさせたい。

【生徒の主体的な学びを促すポイント】

- スピーチ原稿はモデル文をベースにして、自分の体験や夢について書き、オリジナルの内容にする。ただし、自分の言いたいことを必要に応じて文章を増やすことができる。
- 前回、自分が行ったスピーチのビデオ映像を見ることで、自らの課題を発見させ、目標設定の参考とさせる。
(例) 前回のスピーチでは緊張して表情が暗かったので、今回は笑顔で発表する。
- スピーチ発表の評価指標(ルーブリック)を知ることで、自分の目標を明確に持たせ、それをめざして練習させる。

【基礎・基本の定着】

(1) 習得すべき基礎・基本について

- to 不定詞の3つの用法(名詞的用法、副詞的用法、形容詞的用法)の意味、形の理解
- テーマに沿った英作文を書く力
- 「r」「l」「th」「v」「f」「er」など、日本語にはない発音やイントネーションを意識した音読

(2) 定着への手立て

- 授業中のパターンプラクティスと家庭学習において繰り返し練習させる。
- 授業開始時の「帯学習」でインプットを行う。

- ミニ読解で、モデル文を複数読ませ、参考にさせる。
- 発音とイントネーションを意識した音読練習をさせ、一人一人を教師がチェックする。

5 単元の目標

- to 不定詞を含む英文を使って積極的に対話したり、自分の意見を伝えたりする。
- 既習内容や辞書を活用するなどして書く。
- 職場体験の内容や学んだこと、将来の夢について英文で書く。
- デリバリーを意識して、聞き手に伝わるスピーチをする。
- to 不定詞の3つ用法を含む英文が使われた長文の内容を理解する。
- 自然な速さで話される英文を聞いて理解する。
- to 不定詞の3つの用法の意味、形を理解する。

6 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図っている。	① 既習事項を用いて、目的に応じて書くことができる。	① まとまった量の英文を読んで、内容を理解できる。	① to 不定詞の3つの用法の意味、形を理解している。
② 既習事項や辞書等を活用して、積極的に英文を書いている。	② 書かれた内容が伝わる音読・スピーチができる。	② 自然な速さで話される英文の内容を理解できる。	

7 本単元を通して伸ばしたい資質・能力

※塩町中学校区では、小中9年間で身に付けさせたい9つの能力を定めている。

塩町中学校区9能力			
① 情報活用能力 (調べてまとめる力)		④判断力 (自分で決める力)	⑦体力・継続力 (ねばり強くやりきる力)
② 発見力 (見つける力)		⑤表現力 (伝える力)	◎ ⑧人間関係形成能力 (人とかかわる力)
③ 思考力 (考える力)		⑥将来設計能力 (なりたい自分を描く力)	○ ⑨生活力 (学んだ事を生かす力)

⑤ 表現力 ……相手に伝えることを意識した発表ができる。

⑥ 将来設計能力 ……夢を実現するために自分に必要な力を考え、そのために何ができるか考え、表現できる。

8 指導と評価の計画（全12時間）

次	学習内容 (時数)	評 価				
		関	表	理	知	評価規準 (評価方法)
1	単元の導入 ○ 小学校外国語活動での「夢宣言」を紹介し、誰の夢か考えさせる。本単元の終わりに、今度は「夢の <u>実現宣言</u> 」をすることを告げる。 帯 既習文法事項復習 ○ to 不定詞「名詞的用法」の意味、形を理解する。 ○ want / like to～を用いた英文のパターンプラクティスをして自己表現文を作る。 ○ 「want to～」を使った疑問文を作り、仲間と会話する。 (1)	○				ア① (活動の様子)
2	帯 既習文法事項復習 ○ 教科書本文の内容をQ&Aをしながら確認する。 ○ 自分の体験を基に教科書の会話文をアレンジし、自分の夢と、それが実現した際にやりたいことを書く。 (1)		○			イ① (ワークシート)
3	帯 既習文法事項復習 ○ to 不定詞の「副詞的用法」の意味、形を理解する。 ○ パターンプラクティスで使い方を習得する。 ○ 英文を書く。 (1)	○				エ① (ノート)
4	帯 ミニ読解 ○ 教科書のモデル文を参考にペアでオリジナル対話文を完成させる。 ○ ペアで対話を練習し、発表する。 (1)	○	◎			ア① (活動の様子) イ② (発表の様子)
5	帯 ミニ読解 ○ to 不定詞の「形容詞的用法」の意味、形を理解する。 ○ Do you have anything to～? の形でパターンプラクティスをし、対話活動をする。 (1)	○				ア① (活動の様子)
6	帯 ミニ読解 ○ 新出単語の意味と発音を練習する。 ○ CDを聞いて、内容理解の確認をする。 ○ 発音とイントネーションを意識して個人で音読練習をし、教師の音読チェックを受ける。 (1)		○			イ② 音読チェック

	帯 インプット ○パフォーマンス課題を知る。											
	Dreams Come True ～夢を実現するために～ What is your future dream? Please tell us about it. 将来、自分が就きたい仕事、やりたいことが描けていますか？どんな大きな夢も実現できるかどうかはあなた次第です。職場体験で学んだ事も振り返りながら、夢の実現のためにがんばることを仲間に宣言しよう。											
7	○「書く力」の評価指標を知る。											
	評価指標（ループリック） <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・Bができています。 ・オリジナル文を2文以上付け加え、さらに詳しい内容が書けている。 </td> </tr> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「to 不定詞」の3つの表現を使って正しく表現できている。 ・モデルを参考に7～8文程度の英文が自分の力で書ける。（辞書を使ってもOK） </td> </tr> <tr> <td>C</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・Bに達しない。 </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Bができています。 ・オリジナル文を2文以上付け加え、さらに詳しい内容が書けている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「to 不定詞」の3つの表現を使って正しく表現できている。 ・モデルを参考に7～8文程度の英文が自分の力で書ける。（辞書を使ってもOK） 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・Bに達しない。 					
A	<ul style="list-style-type: none"> ・Bができています。 ・オリジナル文を2文以上付け加え、さらに詳しい内容が書けている。 											
B	<ul style="list-style-type: none"> ・「to 不定詞」の3つの表現を使って正しく表現できている。 ・モデルを参考に7～8文程度の英文が自分の力で書ける。（辞書を使ってもOK） 											
C	<ul style="list-style-type: none"> ・Bに達しない。 											
	○My Project⑤のモデル文を読み、構成や自分のスピーチに効果的な表現を知る。	○	◎		○	ア②、イ① エ① (スピーチ原稿)						
	○モデルを参考に、ワークシートに原稿を書く。（1） (完成した原稿は提出し、JTE, ALTのチェックを受ける。)											
	帯 インプット ○スピーチ原稿の清書をする。 ○「話す力」の評価指標を知る。											
8	評価指標（ループリック） <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・Bができています。 ・話すスピードや適切な間、ジェスチャーなど、聞き手を意識した工夫ができています。 ・相手の話を聞いて、英語で質問や意見を言うことができる。 </td> </tr> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「良いスピーチ」のポイントを意識してスピーチができる。（原稿は4～5回見てもOK） ・うなずきや相槌をうちながら聞くことができる。 </td> </tr> <tr> <td>C</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・Bに達しない。 </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Bができています。 ・話すスピードや適切な間、ジェスチャーなど、聞き手を意識した工夫ができています。 ・相手の話を聞いて、英語で質問や意見を言うことができる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「良いスピーチ」のポイントを意識してスピーチができる。（原稿は4～5回見てもOK） ・うなずきや相槌をうちながら聞くことができる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・Bに達しない。 					
A	<ul style="list-style-type: none"> ・Bができています。 ・話すスピードや適切な間、ジェスチャーなど、聞き手を意識した工夫ができています。 ・相手の話を聞いて、英語で質問や意見を言うことができる。 											
B	<ul style="list-style-type: none"> ・「良いスピーチ」のポイントを意識してスピーチができる。（原稿は4～5回見てもOK） ・うなずきや相槌をうちながら聞くことができる。 											
C	<ul style="list-style-type: none"> ・Bに達しない。 											
	○ 前回のスピーチのビデオ映像を見て、自分の課題を発見した後、練習を始める。（1）	◎				ア①（活動の様子）						
9	帯 インプット ○ 原稿から目を離して読めるように音読練習をする。 ○ 個人、ペアで練習する。 ○ グループ内発表を行う。 ○ 聞き手は質問をしたり、感想を伝えたりする。（1）		◎			ア①（活動の様子）						
10	○ 最終確認をして、発表の準備をする。 ○ 発表をする。 ○ 聞き手から、質問したり、感想を伝えたりする。（2）			◎		イ② (発表の様子)						
後日	中間テスト ○ リスニングテスト ○ 長文読解 ○ 会話テスト	○		◎	◎	ウ①② エ① ア①(テスト)						

9 授業の展開

【第1次 1時間目】

(1) 本時の目標

- ・ to 不定詞「名詞的用法」の意味、形を理解する。
- ・ Do you want to~? を使って積極的に問答できる。

(2) 観点別評価規準

ア① 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図っている。

(3) 準備物

CDプレーヤー, 電子黒板, ワークシート, シール

(4) 学習の展開

時間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	教科の評価規準 (評価方法)						
導入 10分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○これまでの文法事項を復習する。	●日直に英語で授業開始の日付, 曜日, 天気, 時間等を確認する。 ○発音を意識して歌おう。 ●電子黒板で画面を移すスピードを生徒の反応を見ながら変えていく。							
展開 35分	○教師の話の中から本時の文法事項を聞き取る。 ○ノートにポイントをまとめる。 ○本時のねらいを確認する。 ○パターンプラクティスを行う。 ○本時の指標を確認する。 ○クラスの仲間と問答する。 ○ノートにオリジナル文を書く。	<p>What time is it now? It's 10:45! I'm so hungry. I want to eat spaghetti. I'm thirsty. I want to drink orange juice. For dessert, I want to eat a chocolate cake. Oh, (生徒の名前), you like to cook, right? Please cook for me.</p> <p>●新出文法事項が分かりやすいように板書する。 I want to eat spaghetti. You like to cook.</p> <p>I can use "want to~", "like to~" and talk with my friends.</p> <p>●インタビューで使う動詞を使って発話させ, 疑問文の練習もさせる。</p> <p>評価指標 (ループリック)</p> <table border="1" data-bbox="576 1615 1396 1800"> <tr> <td data-bbox="576 1615 635 1677">A</td> <td data-bbox="635 1615 1396 1677"> ・Bができる。 ・全ての質問に2文以上で答えようとする事ができた。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="576 1677 635 1740">B</td> <td data-bbox="635 1677 1396 1740"> ・男女問わず, 自分から笑顔で話しかける。 ・アイコンタクト, うなずきや相槌をうちながら話が聞ける。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="576 1740 635 1800">C</td> <td data-bbox="635 1740 1396 1800">Bに達しない。</td> </tr> </table> <p>◆2文目の言い方をアドバイスする。 ●会話中のアイコンタクトを意識させる。</p> <p>①自分が今したいこと。②自分が今したくないこと。 ③友達が今したいこと。④友達が今したくないこと。</p>	A	・Bができる。 ・全ての質問に2文以上で答えようとする事ができた。	B	・男女問わず, 自分から笑顔で話しかける。 ・アイコンタクト, うなずきや相槌をうちながら話が聞ける。	C	Bに達しない。	<p>ア① 間違いを恐れず, 積極的にコミュニケーションを図っている。</p>
A	・Bができる。 ・全ての質問に2文以上で答えようとする事ができた。								
B	・男女問わず, 自分から笑顔で話しかける。 ・アイコンタクト, うなずきや相槌をうちながら話が聞ける。								
C	Bに達しない。								

	○できた生徒はリトル ティーチャーになっ て○付けをする。	◆主語が友達の名前の場合は三単現の s(es)を付ける ことに気付かせる。	
ま と め 5 分	○授業を振り返る。	●A, B 評価と具体的に頑張ったことを書くよう指示 する。 ○今日の生徒の活動を具体的に評価する。	

【第2次 2時間目】

(1) 本時の目標

・教科書のモデル文を参考に自分の職場体験について書くことができる。

(2) 観点別評価規準

イ① 既習事項を用いて、目的に応じて書くことができる。

(3) 準備物

CD, CDプレーヤー, ワークシート, シール

(4) 学習の展開

時 間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	教科の評価規準 (評価方法)
導 入 10 分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○これまでの文法事項 を復習する。	●日直に英語で授業開始の日付, 曜日, 天気, 時間等 を確認する。 ○発音を意識して歌おう。 ●電子黒板で画面を移すスピードを生徒の反応を見な がら変えていく。 ●前時の want to~, like to~も含めた復習をさせる。	

<p>展開 35分</p>	<p>○本時のねらいを確認する。</p> <p>○新出単語の意味を確認し、発音をする。</p> <p>○本文の内容をCDを聞いて予想する。</p> <p>○わかったことを発表する。</p> <p>○本時の指標を確認する。</p> <p>○目標をもってペアで練習し、教師の音読チェックを受ける。</p> <p>○今日の評価と振り返りをノートに書く。</p> <p>○ワークシートにオリジナル文を書く。</p>	<p style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">I can write about my work experience.</p> <p>●フラッシュカードを利用して、リズムよく発話させる。</p> <p>●職場体験をした場所、仕事の内容、将来の夢は何か等、聞き取りのポイントを示す。</p> <p>◆聞き取りが難しかったところは、パートナーや近くの生徒と相談させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">評価指標（ルーブリック）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">A</td> <td>・Bができる。 ・相手の目を見ながら音読できる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>・つまり、内容の伝わる音読ができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>Bに達しない。</td> </tr> </table> </div> <p>●どちらのパートもできるように練習する。</p> <p>●チェックの前に、A、Bのどちらを目指すのか確認してから、音読をチェックする。</p> <p>●辞書を使って、間違いを気にせず書くよう指示する。</p>	A	・Bができる。 ・相手の目を見ながら音読できる。	B	・つまり、内容の伝わる音読ができる。	C	Bに達しない。	<p>イ②書かれた内容が伝わる音読ができる。</p>
A	・Bができる。 ・相手の目を見ながら音読できる。								
B	・つまり、内容の伝わる音読ができる。								
C	Bに達しない。								
<p>まとめ 5分</p>	<p>○宿題の内容を知る。</p>	<p>●授業中に書ききれなかった部分を完成させることを指示する。（英文はALTのチェックを受ける。）</p> <p>○今日の生徒の活動を具体的に評価する。</p>							

P53の本文を参考に自分の職場体験についての英文を書こう！

Ms. Wood: Where did you work?

You: I worked at a _____.

Ms. Wood: Really? What did you do there?

You: I _____ there.

Ms. Wood: Did you enjoy it?

You: Yes, very much. I want to be a _____ in the future.

(夢が実現した際にしたいことを書く)

【第3次 3時間目】

(1) 本時の目標

・to不定詞の「副詞的用法」を使って、仲間と会話することができる。

(2) 観点別評価規準

ア① 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションをとっている。

(3) 準備物

CDプレーヤー、電子黒板、ワークシート、シール

(4) 学習の展開

時間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	教科の評価規準 (評価方法)						
導入 10分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○これまでの文法事項を復習する。	●日直に英語で授業開始の日付、曜日、天気、時間等を確認する。 ○発音を意識して歌おう。 ●電子黒板で画面を移すスピードを生徒の反応を見ながら変えていく。							
展開 35分	○教師の話の中から本時の文法事項を聞き取る。 ○ノートにポイントをまとめる。 ○本時のねらいを確認する。 ○パターンプラクティスを行う。 ○対話活動に使う英文を書かせる。 ○本時の指標を確認する。 ○クラスの仲間と問答する。	<p>JTE: Did you go anywhere last weekend, Michael? ALT: Yes. I went to Hiroshima city to watch a baseball game. JTE: Really? How was the game? ALT: It was exciting. Carp won the game.</p> <p>●新出文法事項が分かりやすいように板書する。 I went to Hiroshima <u>to see</u> a baseball game.</p> <p>I can use "to+(verb)" and talk with my friends.</p> <p>●インタビューで使う動詞を使って発話させ、疑問文の練習もさせる。 ●内容は空想でも良いことを伝え、自由な発想で書かせる。 ☆ I went to Tokyo to see EXILE. ☆ I visited Italy to eat pizza.</p> <p>評価指標 (ループリック)</p> <table border="1" data-bbox="576 1749 1394 1928"> <tr> <td data-bbox="576 1749 635 1816">A</td> <td data-bbox="635 1749 1394 1816"> ・Bができる。 ・全ての質問に2文以上で答えようとすることができた。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="576 1816 635 1883">B</td> <td data-bbox="635 1816 1394 1883"> ・男女問わず、自分から笑顔で話しかける。 ・アイコンタクト、うなずきや相槌をうちながら話が聞ける。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="576 1883 635 1928">C</td> <td data-bbox="635 1883 1394 1928">Bに達しない。</td> </tr> </table> <p>●相手の目を見て話したり、内容を聞いて反応したりすることを指示する。</p>	A	・Bができる。 ・全ての質問に2文以上で答えようとすることができた。	B	・男女問わず、自分から笑顔で話しかける。 ・アイコンタクト、うなずきや相槌をうちながら話が聞ける。	C	Bに達しない。	ア① 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションをとろう
A	・Bができる。 ・全ての質問に2文以上で答えようとすることができた。								
B	・男女問わず、自分から笑顔で話しかける。 ・アイコンタクト、うなずきや相槌をうちながら話が聞ける。								
C	Bに達しない。								

	○ノートにオリジナル文を書く。 ○できた生徒はリトルティーチャーになって○付けをする。	◆2文目が付け加えられるようにアドバイスする。 ○聞き取ったメモを基にノートに英文を5文書いてみよう。	としている。
まとめ 5分	○授業を振り返る。	●A, B評価と具体的に頑張ったことを書くよう指示する。 ○今日の生徒の活動を具体的に評価する。	

【第4次 4時間目】

(1) 本時の目標

- ・自分の職場体験について積極的に英文を書くことができる。
- ・教科書の本文を参考に自分の職場体験についての対話文を作成できる。

(2) 観点別評価規準

- ア② 既習事項や辞書等を活用して、積極的に英文を書いている。
イ① 既習事項を用いて、目的に応じて書くことができる。

(3) 準備物

CDプレーヤー, 電子黒板, ワークシート, シール

(4) 学習の展開

時間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	教科の評価規準 (評価方法)						
導入 10分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○Q&A	●日直に英語で授業開始の日付, 曜日, 天気, 時間等を確認する。 ○発音を意識して歌おう。 ●2文以上で答えること, 相手の目を見て話すことを指示する。 ◆2文目の答え方を支援する。							
展開 35分	○本時のねらいを確認する。 ○本時の指標を確認する。 ○新出単語を確認する。 ○教科書の内容を理解する。 ○自分の職場体験につ	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">I can make a speech about my future dream.</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 評価指標 (ルーブリック) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50px; text-align: center;">A</td> <td>・Bができる。 ・2文以上で答える英文を書いている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>・自分の職場体験について答える英文を書こうとしている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>Bに達しない。</td> </tr> </table> </div> ●自然な英語の発音に近づける意識を持たせる。 ●Q&Aをしながら内容理解を促す。 ○ワークシートの空欄に, 自分の職場体験の感想, 仕	A	・Bができる。 ・2文以上で答える英文を書いている。	B	・自分の職場体験について答える英文を書こうとしている。	C	Bに達しない。	
A	・Bができる。 ・2文以上で答える英文を書いている。								
B	・自分の職場体験について答える英文を書こうとしている。								
C	Bに達しない。								

	いて答える文を書く。 ○ペアで互いの文を読み合う。 ○教師のチェックを受ける。	事内容、そして学んだことを書いてみよう。 ●辞書を使うなどして、できるだけ自分の力で書くよう指示する。 ●パートナーや指導者に相談しながら完成させる。	ア②既習事項や辞書等を活用して、積極的に英文を書いている。 イ①既習事項を用いて、目的に応じて書くことができる。
まとめ5分	○授業を振り返る。 ○次時の確認をする。	●A, B評価と具体的に頑張ったことを書くよう指示する。 ○今日の生徒の活動を具体的に評価する。	

P55の本文を参考に自分の職場体験についての英文を書こう!

Ms. Wood: How was your work experience?

You: _____.

Ms. Wood: Where did you work?

You: I worked at _____

A lot of people came to the _____

Ms. Wood: Really? What did you do?

You: I _____ there.

Ms. Wood: Did you learn anything?

You: Yes. _____

【第5次 5時間目】

(1) 本時の目標

- ・to不定詞の「形容詞的用法」を使って、仲間と積極的に問答できる。

(2) 観点別評価規準

- ア① 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図っている。

(3) 準備物

- CDプレーヤー, 電子黒板, ワークシート, シール

(4) 学習の展開

時間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	教科の評価規準 (評価方法)
導入	○あいさつをする。	●日直に英語で授業開始の日付, 曜日, 天気, 時間等を確認。	
10分	○英語の歌を歌う。 ○Q&A	○発音を意識して歌おう。 ●2文以上で答えること, 相手の目を見て話すことを	

		指示する。 ◆ 2文目の答え方を支援する。	
展 開 35 分	○教師の話の中から本時の文法事項を聞き取る。	What time is it now? It's eleven o'clock. I'm so hungry. Do you have anything to eat, (生徒の名前)? Really? How about you, (生徒の名前)? No? OK. ...I'm also thirsty. Do you have anything to drink? Yes, you do. Is that tea? Can I drink it?	
	○ノートにポイントをまとめる。 ○本時のねらいを確認する。 ○パターンプラクティスを行う。 ○本時の指標を確認する。	●新出文法事項が分かりやすいように板書する。 I want something <u>to eat</u> . Do you have anything <u>to drink</u> ? I can use "to+(verb)" and talk with my friends.	
	○クラスの仲間と問答する。 ○聞いた内容を基にノートに英文を書く。 ○早くできた生徒はリトルティーチャーになって○付けをする。	◆相手の目を見て話し、反応することを意識させる。 (例)Yumi has something to eat. It's a rice ball. Ken has something to drink. It's cola. Taro has something to read. It's a magazine.	ア① 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションを図っている。
ま と め 5 分	○授業を振り返る。 ○次時の確認をする。	●A, B評価と具体的に頑張ったことを書くよう指示する。 ○今日の生徒の活動を具体的に評価する。	

【第6次 6時間目】

(1) 本時の目標

- ・教科書のモデル文を理解し、内容が伝わる音読ができる。

(2) 観点別評価規準

- イ② 書かれた内容が伝わる音読ができる。

(3) 準備物

- CDプレーヤー, ミニ読解, ワークシート, シール

(4) 学習の展開

時間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	教科の評価規準 (評価方法)						
導入 10分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○ミニ読解	●日直に英語で授業開始の日付, 曜日, 天気, 時間等を確認する。 ○発音を意識して歌おう。 ◆大切な部分が読み取れるように, ヒントを与える。							
展開 35分	○本時のねらいを確認する。 ○本時の指標を確認する。 ○新出単語を確認する。 ○教科書の内容を理解する。 ○教師の後に続いて音読する。 ○ペアで交互読みをする。 ○個人で練習する。 ○教師のチェックを受ける。	<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">I can read the sentences smoothly.</div> <p>評価指標 (ルーブリック)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">A</td> <td>・Bができる。 ・教科書から目を離してスピーチができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>・つまらずに, 内容が伝わる音読ができる。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>Bに達しない。</td> </tr> </table> ●自然な英語の発音に近づける意識を持たせる。 ●Q&Aをしながら内容理解を促す。 ●日本語訳を渡す。 ●速さを変えて, 徐々に早く読めるように意識させる。 ◆読めない単語がないようにサポートする。 ◆発音, イントネーションを意識させる。	A	・Bができる。 ・教科書から目を離してスピーチができる。	B	・つまらずに, 内容が伝わる音読ができる。	C	Bに達しない。	②書かれた内容が伝わる音読ができる。
A	・Bができる。 ・教科書から目を離してスピーチができる。								
B	・つまらずに, 内容が伝わる音読ができる。								
C	Bに達しない。								
まとめ 5分	○授業を振り返る。 ○次時の確認をする。	●A, B評価と具体的に頑張ったことを書くよう指示する。 ○今日の生徒の活動を具体的に評価する。							

【第7次 7時間目】

(1) 本時の目標

- ・自分の夢についてのスピーチ原稿を積極的に書くことができる。

(2) 観点別評価規準

- ア② 既習事項や辞書等を活用し、積極的に英文を書いている。

(3) 準備物

CDプレーヤー, ミニ読解, ワークシート, シール

(4) 学習の展開

時間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	教科の評価規準 (評価方法)
導入 10分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○ミニ読解	●日直に英語で授業開始の日付, 曜日, 天気, 時間等を確認する。 ○発音を意識して歌おう。 ◆大切な部分が読み取れるように, ヒントを与える。	
展開 35分	○パフォーマンス課題を確認する。	Dreams Come True ! What is your future dream? Please tell me about it. 将来, 自分が就きたい仕事, やりたいことが描けていますか? どんな大きな夢も実現できるかどうかはあなた次第です。職場体験で学んだ事も振り返りながら, 夢の実現のために今からがんばることを仲間に宣言しよう。	
	○本時のねらいを確認する。 ○本時の指標を確認する。	I can write about my future dream.	
	評価指標 (ルーブリック)		
	○MyProject5「スピーチをしよう」を読んで, 便利な表現を知る。 ○スピーチ原稿を書く。	○スピーチに使えるその他の表現を見てみよう。 ●「I have two reasons. First, second,...」や「I want to be like him.」などの表現を紹介する。 ●これまでに書いてきたオリジナル文を活用すれば書きやすい事を知らせる。 ◆ヒントを与えながら, 自力で書くためのサポートをする。	ア②既習事項や辞書等を活用し, 積極的に英文を書いている。
まとめ 5分	○次時の確認をする。	○今日の生徒の活動を具体的に評価する。 ○次の時間に原稿を完成させるために, 家庭学習で原稿作成の続きをすることを指示する。	

【第8次 8時間目】

(1) 本時の目標

- ・スピーチの原稿を仕上げることができる。

(2) 観点別評価規準

- イ① 既習事項を用いて、目的に応じて書くことができる。

(3) 準備物

- CDプレーヤー, ワークシート, パソコン4台~5台

(4) 学習の展開

時間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	教科の評価規準 (評価方法)						
導入 10分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○インプット	●日直に英語で授業開始の日付, 曜日, 天気, 時間等を確認する。 ○発音を意識して歌おう。 ◆大切な部分が読み取れるように, ヒントを与える。							
展開 35分	○本時のねらいを確認する。 ○原稿作成の続きを行い, 完成させる。 ○ビデオを見て課題を設定する。 ○評価指標を確認し, 練習を始める。	<p style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">I can finish writing the speech and start practicing.</p> <p>●誤字, 脱字がないか, 原稿をチェックする。</p> <p>●前回のスピーチのビデオを一人ひとりに見せ, 自分の課題設定に生かせるようにする。</p> <p>評価指標 (ルーブリック)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">A</td> <td>・Bができています。 ・話すスピードや適切な間, ジェスチャーなど, 聞き手を意識した工夫ができています。 ・相手の話を聞いて, 英語で質問や意見を言うことができる。</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>・「良いスピーチ」のポイントを意識してスピーチができる。 (原稿は4~5回見てもOK) ・うなずきや相槌をうちながら聞くことができる。</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>Bに達しない。</td> </tr> </table> <p>◆読めない単語にはカタカナをふらせる。英語らしい発音に近づける意識をもたせる。</p>	A	・Bができています。 ・話すスピードや適切な間, ジェスチャーなど, 聞き手を意識した工夫ができています。 ・相手の話を聞いて, 英語で質問や意見を言うことができる。	B	・「良いスピーチ」のポイントを意識してスピーチができる。 (原稿は4~5回見てもOK) ・うなずきや相槌をうちながら聞くことができる。	C	Bに達しない。	イ①既習事項を用いて, 目的に応じて書くことができる。
A	・Bができています。 ・話すスピードや適切な間, ジェスチャーなど, 聞き手を意識した工夫ができています。 ・相手の話を聞いて, 英語で質問や意見を言うことができる。								
B	・「良いスピーチ」のポイントを意識してスピーチができる。 (原稿は4~5回見てもOK) ・うなずきや相槌をうちながら聞くことができる。								
C	Bに達しない。								
まとめ 5分	○授業を振り返る。 ○次時の確認をする。	●A, B評価と具体的に頑張ったことを書くよう指示する。 ○今日の生徒の活動を具体的に評価する。 ○次の時間では, グループ内発表をすることを伝える。							

【第9次 9時間目】

(1) 本時の目標

- ・自分の夢について、内容が伝わるように積極的に話すことができる。
- ・相手のスピーチを、関心をもって聞くことができる。

(2) 観点別評価規準

ア① 間違いを恐れず、積極的にコミュニケーションをとっている。

(3) 準備物

ワークシート, シール, 「良いスピーチのポイント」カード, タブレット

(4) 学習の展開

時間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	評価規準 (評価方法)						
導入 10分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○インプット	●JTE:日直に日付, 曜日, 天気, 時間等を英語で確認する。 ●JTE,ALT:生徒と一緒に元気に歌う。 ◆JTE:ヒントを与えて答えにつなげさせる。							
展開 35分	○本時の目標を知る。 ○今日の評価指標を知る。 ○ALTのスピーチを聞いて, 良いスピーチのポイントを確認する。 ○良い聞き手の態度を考える。 ○個人で音読練習する。 ○ペアで暗唱をチェックし合う。 ○グループになって発表し合う。	●JTE:本時のねらいを確認しよう。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">I can be a good speaker and a good listener.</div> ○JTE:黒板に今日の評価指標を確認しよう。 評価指標 (ルーブリック) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 5%; text-align: center;">A</td> <td>・Bができる。 ・原稿はほとんど見ずに話せる。 ・相手の話を聞いて, 英語で質問やコメントをしようとしている。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">B</td> <td>・「良いスピーチのポイント」を意識してスピーチができる。 ・話す順序を確認する程度なら原稿を見てもOK。 ・うなずきや相槌をうちながら話が聞ける。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">C</td> <td>Bに達しない。</td> </tr> </table> ○JTE:マイケルさんのスピーチは, どんな点が良かったかな? ☆英語らしい発音とイントネーション ☆アイコンタクト ☆笑顔 ☆クリアな声 ☆ジェスチャー ○ALT:良い聞き手の態度は? ☆うなずき ☆リアクション ☆笑顔 ☆質問 ○JTE:自分の目標を設定して, 練習しよう。 ◆机間指導をして発音やイントネーションについてアドバイスをする。 ○JTE:ペアで暗唱をチェックし合おう。 ○JTE:グループのメンバーにスピーチを聞いてもらおう。 ●聞き手には, 「良い聞き手のポイント」を意識させ,	A	・Bができる。 ・原稿はほとんど見ずに話せる。 ・相手の話を聞いて, 英語で質問やコメントをしようとしている。	B	・「良いスピーチのポイント」を意識してスピーチができる。 ・話す順序を確認する程度なら原稿を見てもOK。 ・うなずきや相槌をうちながら話が聞ける。	C	Bに達しない。	
A	・Bができる。 ・原稿はほとんど見ずに話せる。 ・相手の話を聞いて, 英語で質問やコメントをしようとしている。								
B	・「良いスピーチのポイント」を意識してスピーチができる。 ・話す順序を確認する程度なら原稿を見てもOK。 ・うなずきや相槌をうちながら話が聞ける。								
C	Bに達しない。								

	<p>○感想を伝えたり，疑問に思ったことを質問したりする。</p> <p>○聞き手の意見やビデオ映像から，新たな課題を発見する。</p>	<p>また，質問を考えながら聞くよう指導する。</p> <p>●JTE:必要なら，グループの一人にタブレットを使って録画をさせる。</p> <p>●JTE:できるだけ英語で感想を伝えるよう指示する。</p> <p>◆ワークシートにあるコメントの例を参考にさせる。</p> <p>☆Your voice was clear. ☆Your smile was good.</p> <p>☆I think your speech is very interesting.</p> <p>●ALT:英語でコメントできるよう支援する。</p> <p>◆JTE:質問や応答は日本語でもよいことを伝える。</p> <p>○JTE:仲間からのアドバイスや自分のビデオ映像から見つけた課題を次のスピーチに生かそう。</p>	<p>ア① 間違いを恐れず，積極的にコミュニケーションを図っている。 (行動観察)</p>
まとめ 5分	<p>○授業を振り返る。</p> <p>○次時の確認をする。</p>	<p>●今日のルーブリックに従い，A，B評価と具体的に頑張ったことや課題等を書くよう指示する。</p> <p>☆全文覚えて言えた。次はアイコンタクトを意識する。</p> <p>☆まだ暗記が不十分なので，本番までには覚える。</p> <p>☆表情が暗かったので，次は笑顔で話す。</p> <p>○ALT:良かった点やアドバイスを伝える。</p>	

【第9次 10・11時間目】

(1) 本時の目標

- ・相手のスピーチを，関心をもって聞き，質問したり，コメントを言ったりすることができる。
- ・自分の夢について，内容が伝わるようにスピーチができる。

(2) 観点別評価規準

イ② 書かれた内容が伝わるスピーチができる。

(3) 準備物

ワークシート，シール，「良いスピーチのポイント」カード，ビデオカメラ

(4) 学習の展開

時間	学習活動	主な発問・指示 (○) 予想される生徒の反応 (☆) 「C」と判断される生徒への手だて (◆) 指導上の留意点 (●)	教科の評価規準 (評価方法)
導入 3分	○あいさつをする。	●日直に英語で授業開始の日付，曜日，天気，時間等を確認する。	
展開 35分	○本時の目標を知る。	●JTE: 本時のねらいを英語で書いて確認する。	
	○良いスピーチと聞き手のポイントを確認する。	<p>I can make a speech about my future dream to my classmates.</p> <p>○良いスピーチのポイントは？</p> <p>☆発音とイントネーション ☆クリアな声</p> <p>☆アイコンタクト ☆表情 (笑顔)</p> <p>☆自然なジェスチャー</p> <p>○良い聞き手の態度は？</p> <p>・うなずき ・リアクション ・笑顔 ・質問</p>	

<p>○今日の評価指標を知る。</p> <p>○個人で音読練習する。</p> <p>○スピーチを発表する。</p> <p>○仲間のスピーチを聞いて、コメントを書いたり、相手に良い点を伝えたりする。</p>	<p>評価指標（ルーブリック）</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="587 219 639 344">A</td> <td data-bbox="639 219 1406 344"> <ul style="list-style-type: none"> ・Bができています。 ・話すスピードや適切な間、ジェスチャーなど、聞き手を意識した工夫ができています。 ・相手の話を聞いて、英語で質問や意見を言うことができます。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="587 344 639 448">B</td> <td data-bbox="639 344 1406 448"> <ul style="list-style-type: none"> ・「良いスピーチ」のポイントを意識してスピーチができる。（原稿は4～5回見てもOK） ・うなずきや相槌をうちながら聞くことができる。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="587 448 639 501">C</td> <td data-bbox="639 448 1406 501"> <ul style="list-style-type: none"> ・Bに達しない。 </td> </tr> </table>	A	<ul style="list-style-type: none"> ・Bができています。 ・話すスピードや適切な間、ジェスチャーなど、聞き手を意識した工夫ができています。 ・相手の話を聞いて、英語で質問や意見を言うことができます。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「良いスピーチ」のポイントを意識してスピーチができる。（原稿は4～5回見てもOK） ・うなずきや相槌をうちながら聞くことができる。 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・Bに達しない。 	
A	<ul style="list-style-type: none"> ・Bができています。 ・話すスピードや適切な間、ジェスチャーなど、聞き手を意識した工夫ができています。 ・相手の話を聞いて、英語で質問や意見を言うことができます。 							
B	<ul style="list-style-type: none"> ・「良いスピーチ」のポイントを意識してスピーチができる。（原稿は4～5回見てもOK） ・うなずきや相槌をうちながら聞くことができる。 							
C	<ul style="list-style-type: none"> ・Bに達しない。 							
<p>まとめ5分</p> <p>○授業を振り返る。</p> <p>○次時の確認をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆イントネーションに意識させ、詰まらずに読めるよう支援する。 ◆原稿を見てもいいので、時々目を離し、アイコンタクトをとるようアドバイスする。 ●「良いスピーチのポイント」に沿って評価するよう指示する。 ●聞き手には、質問するつもりで聞くように指示する。 ◆良かった点を具体的に評価する。 	<p>イ②書かれた内容が伝わる音読・スピーチができる。</p>						
	<ul style="list-style-type: none"> ●スピーチ発表の取り組みで頑張ったことや、自分の設定した目標に到達できたか、振り返りをさせる。 ○今日の生徒の活動を具体的に評価する。 ●「塩中カード」にも感想を書かせる。 							